

【学会紹介】 口腔顔面神経機能学会

本学会は、1997年に口唇麻痺研究会として発足し、2001年に口腔顔面神経機能学会と改称、口腔顎顔面領域の神経障害の病態解明や治療法の開発などを通じて国民の健康と福祉への貢献を目的として活動しています。学会活動としては、2009年に口唇・舌感覚異常判定認定医制度を制定、これまで9回の認定医試験を実施し、認定医施設23施設(2018年現在)を認定しました。認定医取得者は104名で、学術大会は年1回3月初旬に開催しております。また、2001年には口腔領域感覚異常の診断基準を、2007年には口唇・舌感覚異常プロトコールとして改訂し、学会ホームページにて公開しております。

近年の学会の話題としては、智歯抜歯後やインプラント埋入時の下歯槽神経障害に加え、智歯抜歯後の舌神経知覚障害の報告がみられます。舌神経知覚障害では、舌の錯感覚や味覚消失により患者のQOLが著しく低下し、たとえ神経吻合術が行われたとしても完全な知覚の回復が難しいことがほとんどであるため医療紛争へと発展することが極めて高い事例となります。下顎智歯抜歯は口腔外科手術の最も多い手術であるとともに、広く普及した治療であるが上に、臨床歯科医への周知とその予防策、診断および治療法の確立が急務となっています。2018年4月より精密触覚機能検査が保険導入され、学会としても検査法の普及の一翼を担うことができれば幸いと考えています。

理事長 中村典史

【学会紹介】 日本顕微鏡歯科学会

日本顕微鏡歯科学会 (<http://kenbikyoshika.jp/>) は2004年に辻本恭久(日本大学松戸歯学部)、中川寛一(東京歯科大学)、小林千尋(東京医科歯科大学)、井澤常泰(東京都開業)の4人が発起人となり研究会として発足しました。発会式は日本大学松戸歯学部で行われました。2006年から学会として活動を始め、初代会長には中川寛一が就きました。2011年から辻本恭久が会長となり、その年の東日本大震災では学術大会延期等のアクシデントがありましたが、学会活動は活発になり、当初はオンラインジャーナルのみで論文等の対応をしていたものを、学会誌として The International Journal of Microdentistry (英文誌) を年2回発刊することになりました。また、マイクロデンティストリー-YEAR BOOK もその年から発行しています。学術大会は年1回全国各地で開催していますが、最近では毎回700名以上の会員の参加となっています。現在の会員数は正会員(歯科医師、医師等)、準会員(歯科衛生士、歯科技工士等)、法人会員あわせて約1,600名です。

年1回の学術大会の他に、サテライトセミナーを全国各地で開催してきました。また、症例検討会としてシーズンズセミナーを年数回開催しています。若い先生が多い学会なので毎回熱気あふれるディスカッションが繰り広げられています。本年度から歯科衛生士セミナーも行うようになりましたが予定定員をオーバーし、嬉しい悲鳴を上げています。学会では認定指導医、認定医、認定歯科衛生士の資格を筆記試験、自身が行った治療動画の口頭試問で合格した会員に与えています。

会長 辻本恭久

【学会紹介】 一般社団法人バイオインテグレーション学会

軽くて、丈夫で、安全なチタン金属あるいはチタン合金は、医科の分野では、人工骨・関節、ステント、ネジやワイヤーなどに利用され、歯科では、インプラント材として広く利用されています。チタンインプラントが顎骨内に挿入されると、周囲は新生骨で覆われます。チタンと骨との隙間は小さく、密接に接触し、咬合力に耐えられるだけの結合力となります。これをオッセオインテグレーションといいます。オッセオインテグレーションに関する学会や研究会は世界各国にありました。

一方、チタン表面にハイドロキシアパタイト(HA)がコーティングされた日本発のHAインプラントがあります。これが顎骨内に挿入されると、HAの周囲は短時間で新生骨に覆われます。HAと骨との界面には隙間はなく、直接化学結合(骨性癒着)します。これをバイオインテグレーションといいます。バイオインテグレーションに関する学会はありませんでした。

このような観点から、青木(元医歯大研究所教授)、春日井(医歯大インプラント科教授)らは、基礎科学を積極的に導入してバイオインテグレーションの本質を明らかにしようと、2011年1月に、任意団体バイオインテグレーション学会を世界に先駆けて設立しました。2017年5月11日には一般社団法人バイオインテグレーションとして登記されました。

2018年まで、8回の学術大会を全国で開催し、8巻の雑誌を刊行しました。雑誌の内容は、類を見ないほど充実していると言われています。

理事長 青木秀希

【学会紹介】

日本総合歯科学会

本学会は、2008年に総合歯科協議会を立ち上げ、日本総合歯科協議会を経て、2013年に日本総合歯科学会へと発展し、2015年に認定医制度を発足させました。学会設立までは大学における総合歯科診療、診断学分野、臨床研修教育に関連する歯科医師が中心となって活動してきましたが、学会設立以降は大学のみならず多くの開業歯科医師も含めた歯科医療者にご参加いただき、全人的な総合歯科医療の重要性を追求実践し、研鑽を蓄積しています。

わが国の包括的総合歯科医療を発展・普及することを通して、国民の健康増進に寄与することを目的として、①全人的歯科医療の提供：行動科学の探求、コミュニケーション技法の修得、②地域志向アプローチ：保健・在宅歯科医療への参画、③包括的歯科医療の探求：臨床推論能力の向上、プライマリケアの実践、口腔健康増進・治療技術の修得、④多職種連携：周術期、有病者・在宅での診療、⑤職業規範の遵守：プロフェッショナルとしての資質向上、などを主として生涯研修の開発・実践・教育の3つに大別して追求しています。

医師中心の医療から患者中心の医療、そしてコミュニケーションを重視したチーム医療の時代に、専門各科の技術統合に加えて、総合歯科の学問的基盤となる認知行動技能（医療行動科学）の確立を目指す必要があります。患者の抱く価値観を理解し、cure から care に結びつくことを追求するのが総合歯科の医療と考えます。

理事長 伊藤 孝訓

【学会紹介】

日本再生歯科医学会

本学会は2002年6月に日本再生歯科医学研究会として発足し、翌年に日本再生歯科医学会に改組・改称致しました。初代会長は、吉山昌宏岡山大学教授です。2016年7月に会長および副会長、常任理事会など役員の改選が認められ、私は会長代行から新会長に選出されました。再生医学は損傷した臓器や組織の構造と機能を正常な状態に再生し回復させて病気の治癒へ導こうとする学問であります。バイオマテリアルや組織工学、バイオテクノロジーの発達と本学会会員の研鑽によって目覚ましい研究成果が生まれております。再生医学の分野は多岐に亘っていますが、とくに歯科医学分野においては従来から高水準の補綴や保存修復、口腔外科など独自の再建治療技術が発達してきた実績の上に、他の医学分野に先駆けて歯周組織再生治療が認可・実践されています。

再生医学の基礎研究から再生治療へと患者の期待に応えるために一番近い位置にある再生歯科を益々発展させる使命を本学会は担っています。「歯科医学分野における再生医療の進歩と発展によって人類の健康増進と福祉の向上に寄与することを目的とする」という学会設立時の思いを発展させるべく、学会外に向けても研究成果を広報し、学会への要望を聞き取る市民公開講座の開催に努めていきたいと考えております。今後ともご支援とご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

会長 堤 定美

日本歯学系学会協議会 第16回講演会開催のご案内

下記の通り、講演会を開催いたします。どなたでもご参加いただけますので、多くの皆様のご参加をお待ちしております（事前申込不要）。

テーマ：「我が国の保険医療の仕組み－歯保連の歩み－外保連をお手本にして－」

日時：平成31年2月14日（木）15:00～16:15

会場：日本大学歯科病院（歯学部本館）7階 創設百周年記念講堂

<http://www.dent.nihon-u.ac.jp/hospital/about/access/index.html>

演者：外木 守雄 先生（歯学系学会社会保険委員会連合会長、日本大学歯学部口腔外科学講座口腔外科学分野教授）

日本歯学系学会協議会 平成31年度定時社員総会開催日のご案内

平成31年度定時社員総会の開催日が決定いたしました。

日時：平成31年6月13日（木）午後 会場：未定

詳細が決まりましたら、ホームページ（<http://www.ucjds.jp/>）に情報を掲載いたしますので、そちらをご覧ください。

歯学協ニュースに対するご意見、ご要望等ございましたら、日本歯学系学会協議会事務局までご連絡下さい。

（一社）日本歯学系学会協議会 事務局 〒170-0003 東京都豊島区駒込 1-43-9 駒込 TS ビル（一財）口腔保健協会内

FAX : 03-3947-8341、E-mail : gakkai18@kokuhoken.or.jp